

**製品名: アセチルヒストン H1 (K25) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04160**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	20kDa

**抗原情報**

遺伝子名	H1FOO
別名	H1FOO; H1OO; OSH1; Histone H1oo; Oocyte-specific histone H1; Oocyte-specific linker histone H1; osH1;H1K25AC
遺伝子 ID	132243.0
SwissProt ID	Q8IZA3
免疫原	抗血清は、ヒトヒストン H1 の Lys25 のアセチル化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

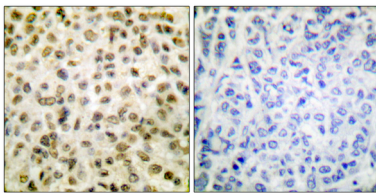
**背景**

ヒストンは、真核生物の染色体繊維のヌクレオソーム構造を担う基本的な核タンパク質です。ヌクレオソームは、4つのコアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) がそれぞれ対になってヒストン八量体に巻き付いた約 146 bp の DNA で構成されています。クロマチン繊維は、リンカーヒストン H1 とヌクレオソーム間の DNA との相互作用によってさらに凝縮され、高次のクロマチン構造を形成します。コードされているタンパク質は、ヒストン H1 ファミリーに属する複製非依存性ヒストンです。この遺伝子は、ほとんどのヒストン遺伝子とは異なり、イントロンを含んでいます。関連するマウス遺伝子は、卵母細胞でのみ発現します。[RefSeq 提供、2015 年 10 月]、機能: おそらくクロマチン構造の擾動を介して、卵形成および初期胚発生中の遺伝子発現制御に重要な役割を果たす可能性があります。卵母細胞期の卵母細胞における減数分裂成熟に必須。体細胞型リンカーヒストン H1c は、卵母細胞に移植されたドナー核において、急速に H1oo に置換される。H1c と比較して H1oo の可動性が高いことが、この急速な置換と胚性クロマチン構造の不安定性増大に寄与している可能性がある。H1c から H1oo への急速な置換は、核リモデリングにおいて重要な役割を果たす可能性がある。、類似性: ヒストン H1/H5 ファミリーに属する。、組織特異性: 卵母細胞特異的。、

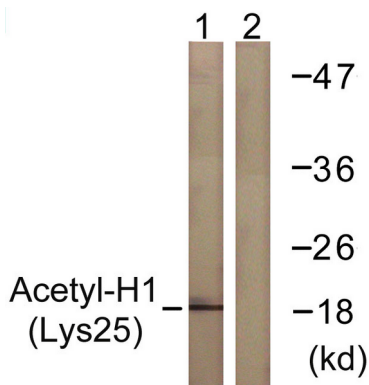
## 研究分野

タンパク質アセチル化

## 画像データ



ヒストン H1 (アセチル-Lys25) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



COS7 細胞ライセートを TSA 400nM で 24 時間処理し、ヒストン H1 (アセチル-Lys25) 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。